

# 行政の窓



## 令和元年 特用林産統計について



### 【特用林産物生産額】

令和元年における道内の特用林産物の生産額は、全体の96%を占めるきのこ類が減少したことにより、総額は約107億円（前年比94%）と、前年を下回りました。

### 【きのこ類の生産動向】

令和元年のきのこ類の生産量は17,622トン（前年比95%）と前年を下回りました。このうち、道内で最も生産量の多い「生しいたけ」（原木および菌床）は、生産量が6,719トン（前年比93%）、生産額は約48億円（前年比91%）と、前年を下回りました。

また、近年、生産が伸びてきたきくらげ類ですが、令和元年の生産量が生換算で190トン（前年比60%）と前年を大きく下回ったものの、都道府県別では岐阜県に次ぐ、第2位の生産量となっています。

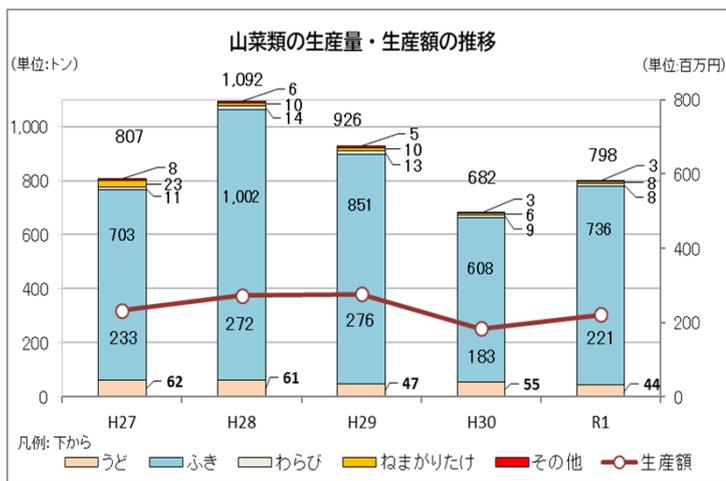
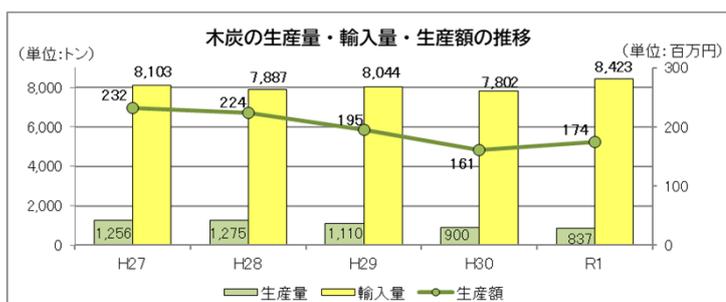
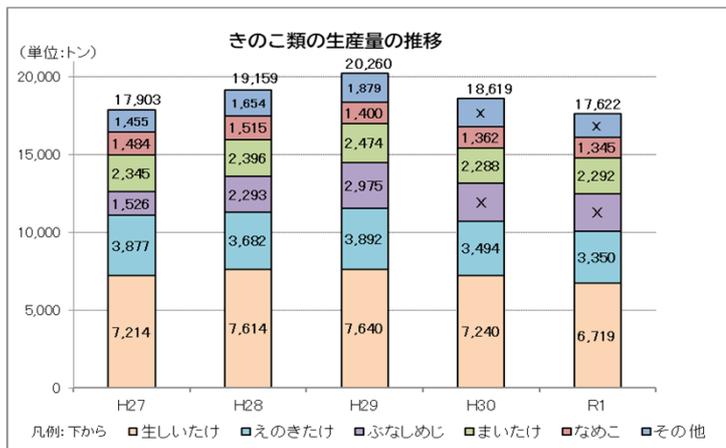
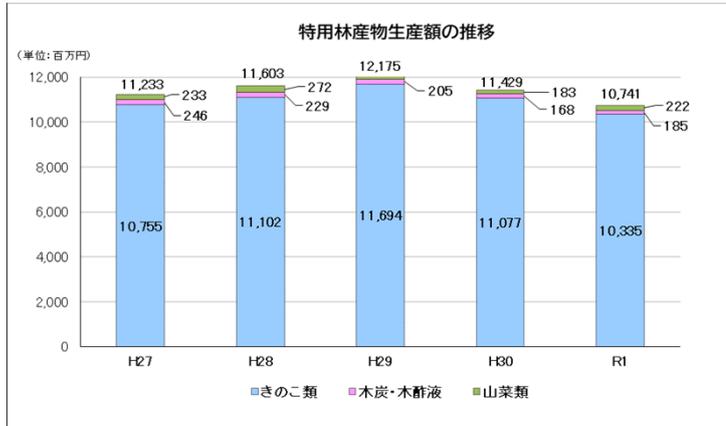
### 【木炭の生産動向】

令和元年の生産量は837トン（前年比93%）、生産額は174百万円（前年比108%）と、生産量は前年を下回ったものの、生産額は前年を上回りました。

### 【主な山菜類の生産動向】

道内における山菜類の生産量は、天然物の採取が中心のため、天候に左右される特徴があるものの、令和元年は生産量が798トン（前年比117%）、生産額は221百万円（前年比121%）と、いずれも前年を上回りました。

※上記生産額は、全て推計額となります。  
 ※平成30年度以降の統計調査結果の公表にあたっては、調査対象者数が2以下の場合、個人または法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。また、全体（計）からの差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合についても「X」表示としています。



(水産林務部林務局林業木材課木材産業係)